

平成26年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立松梅中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。これは、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図ることが目的です。学校においては、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることやこれらの取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善を確立することを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

平成26年4月22日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 〔国語A, 数学A〕	主として「活用」に関する問題 〔国語B, 数学B〕
<ul style="list-style-type: none">身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	<ul style="list-style-type: none">知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などにかかわる内容様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲, 学習方法, 学習環境, 生活の諸側面に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況, 児童生徒の体力・運動能力の全体的な状況等に関する調査

■ 調査結果及び考察について

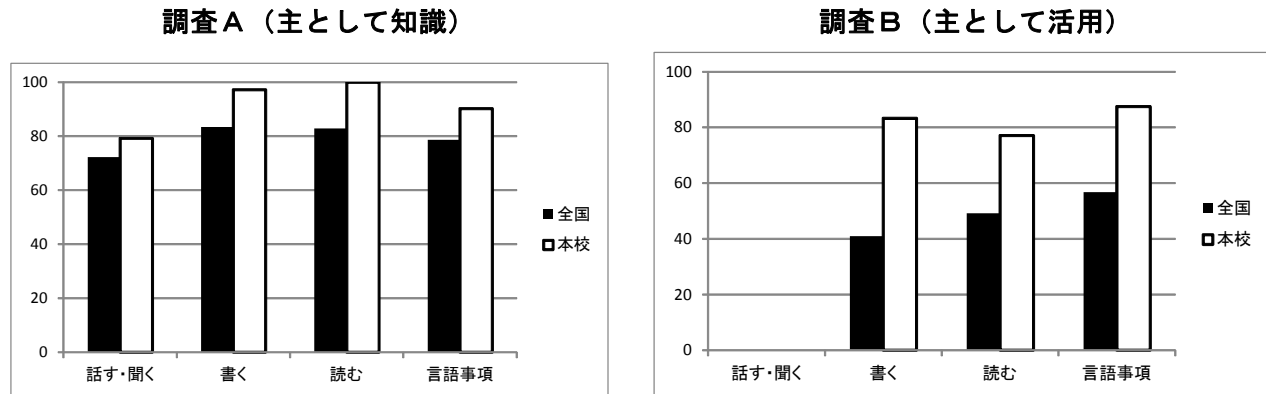
全国学力学習状況調査は中学3年生(小学6年生)と限られた学年が対象であり、教科は国語と数学(算数)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■調査結果及び考察

1 国語

(1) 結果

全国正答率との比較



各領域での平均を全国と比較すると全ての領域で全国平均を上回っている。特に調査B「主として活用」については全国平均を大きく上回っている。無回答率は0%で、全ての問題に対してあきらめることなく取り組んでいる。国語科だけでなく、全校で「活用する力」の育成に取り組んでいることの成果が現れていると考える。

(2) 成果と課題

話すこと・聞くこと

・ほとんどの問題で全国平均を上回っているが、目的に応じて、資料を効果的に活用して話す問題では、正答率が全国平均を10ポイント下回っている。国語科授業の中で、資料活用について指導すると共に、他の教科や発表と関連させて指導する必要がある。

書くこと

・調査Aでは、ほとんどの問題で正答率が100%であった。基本的なことは身につけていると考えられる。調査Bでは、読むことと書くことを関連させた問題であった。全国平均に比べると、高い正答率であるが、全員が正答できるよう力をつけていく必要がある。

読むこと

・調査Aでは、全ての問題で正答率が100%であった。調査Bでは、本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る問題の正答率だけが全国平均を下回っていた。紛らわしい選択肢を正確にとらえ、本文に照らして、的確に判断する力を育成する必要がある。

言語事項

・漢字を書く問題で全国平均を下回る問題があった。また、歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む問題が全国平均を下回っていた。基礎的な知識について、定着が不十分である。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 全教科を通して「活用する力」をつけるよう言語活動を取り入れた授業を行います。
- 漢字テストや小テストの回数を増やし、基礎的な知識の定着を図ります。
- 授業をはじめ様々な行事などでも、発表したり意見交換したりする場面を多く設定し、コミュニケーション能力の育成を目指します。

【ご家庭では】

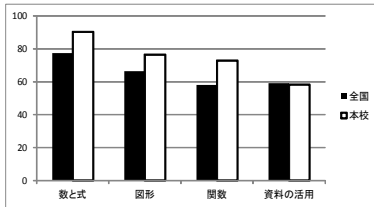
- 中学生になると、読書をする時間がなかなか取れないといいます。「どんな本を読んでいるの」「おもしろそうね」等の声かけや、同じ本を読んでみるなど家族ぐるみで読書に親しんでください。
- 漢字などの宿題に目を通してください。「覚えているかテストしてみようか」等のご協力をお願いします。丁寧に書けているときは「しっかり書けているね」と励ましの言葉をお願いします。

2 数学

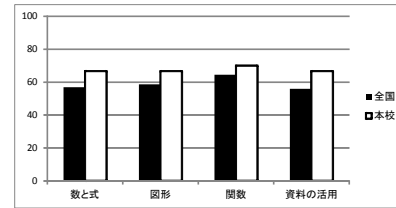
(1) 結果

全国正答率との比較

調査A（主として知識）



調査B（主として活用）



基礎的な知識を問うA問題全体では全国平均を上回っているものの領域別にみると、資料の活用では言葉の意味をきちんと理解しておらず、無回答の生徒もいた。また、B問題では問題形式ごとの正答率を見てみると、選択肢から選ぶ問題が94.4%に対して、理由や方法を記述する問題は52.8%で、考えを筋道立てた適切な記述ができていない傾向が見られた。

(2) 成果と課題

数と式

・計算問題は大変よくできており、正答率100%の問が多い。しかし、ある事柄を筋道立てて説明する問では、説明が不十分だったり、途中までしか書いていなかったため、事柄を数式を用いて簡潔に表現し、分かりやすく伝える力を付ける必要がある。

図形

・多角形の内角・外角の性質を利用し、角度を求める問題は良くできていたが、証明の問題で仮定と結論をしっかりと区別し、根拠を理解したうえで証明を進めていく力を付ける必要がある。

関数

・比例の関係を式で表すことはよくできているのに対し、反比例のグラフから表を選ぶ問では正答率が低く、第2学年で取り扱っていない内容についての知識が薄らいでいる。一次関数のグラフから、事象に即して解釈することはよくできていた。

資料の活用

・ある場合の得点を樹形図を利用し、分類整理する問では全員が正解することができていた。しかし、与えられた資料から、相対度数や中央値を求める問では半数しか正解できておらず、言葉の意味を理解し解き方を再確認する必要がある。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 全教科を通して「活用する力」をつけるよう言語活動を取り入れた授業を行います。
- すすくテスト（基礎的な内容）を行い、補充学習が必要な生徒に対しては昼休みや放課後に個別指導を行い、基礎的な知識の定着を図ります。
- ほぼ毎日宿題を出し、様々な問題に慣れさせます。

【ご家庭では】

- 今何を学習しているのかを知るためにも、授業や宿題のプリントに目を通してください。そしてたくさんの励ましや称賛の言葉をかけてあげてください。

3 生活習慣や学修習慣に関する調査

(1) 結果 《生活習慣について》

調査の項目	本校6人中	本校%	全国平均%
毎日同じ時間に起きている	6人	100%	74.1%
毎日同じ時間に寝ている	6人	100%	82.1%
学校の規則を守っている	6人	100%	93.0%
将来の夢や目標を持っている	2人	33.3%	71.4%
人の役に立つ人間になりたい	6人	100%	94.0%
人の気持ちが分かる人になりたい	6人	100%	95.3%
自分には良いところがある	2人	33.3%	67.1%
平日にゲームを1時間以上する	4人	66.6%	57.3%

起床時間や就寝時間または学校の規則遵守などの結果から、全員が基本的な生活習慣が身に付いている。また、遅刻する生徒も無く、学校行事など積極的に取り組み、学校生活を楽しんでいる。

テレビ・ゲームについては、4人の生徒が毎日1～3時間しており、インターネットを4時間以上している生徒もいる。家庭での過ごし方を見直す必要がある。

進路に対する意識として、「人の役に立ちたい」「人の気持ちになりたい」など将来の人物像に対しては強いが、具体的な目標あ夢を持っていないようである。

自己肯定感が低く、全国平均から比べると著しく低い。自分の良さに気づいていない生徒が多い。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校6人中	本校%	全国平均%
平日2時間以上勉強している	0人	0%	35.1%
平日1～2時間勉強している	2人	33.3%	32.8%
平日0～1時間勉強している	4人	66.6%	26.3%
休日0～1時間勉強している	4人	66.6%	32.5%
家で予習をしている	1人	16.6%	34.2%
自分で計画を立てて勉強している	2人	33.3%	46.6%

本校の生徒は、平日に2時間以上家庭学習している生徒が0人で、1～2時間している生徒がわずか2人である。宿題の提出状況はきちんとしているので、家庭では宿題のみの学習になっていることが推測できる。

学習内容については、家庭で予習をしている生徒が全国平均に比べて半数以下、自分で計画を立てて勉強している生徒が全国平均より低いことから、主体的な学習習慣が身に付いていなかったり、学習内容を理解していないことが分かる。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 毎日、1時間程度の宿題を出し、それ以外は自主的な学習をするように促します。宿題については帰りの会で全員に確認させ、翌朝に家庭学習チェック表を提出させることで定着を図ります。
- 宿題の内容では、これまでのノートを作業的に進める「自学ノート」ではなく、生徒が選んだ問題集や思考を必要とする課題をするように指導する。
- キャリア学習に重点を置き、自分に適した職業、学習と職業との関連について学習しています。子ども達が将来の目標に向かって主体的な学習ができるように努めています。

【ご家庭では】

- 基本的な生活習慣はできていますが、家庭学習習慣が身に付いていません。学習する時間を決めて規則正しい家庭学習ができるようにご指導ください。
- 自分から取り組もうとする主体的な学習を目指しましょう。そのためにも将来の夢や希望を持つことが大切です。中学校卒業後の見通しや職業についてお子さんと対話も持つと意識が高まると思います。